

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

阿 部 晶 子

今 井 智 子

石 坂 郁 代

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 紀 子

倉 内 紀 子

倉 智 雅 子

佐 藤 睦 子

椎 名 英 貴

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

中 村 光 一

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝 木 準

今夏は、7月23日から1年遅れの東京オリンピックが開催されました。大部分の競技は無観客で実施されましたが、オリンピックたちの活躍はメディアを通して世界に発信され人々の心を動かししました。しかしこの期間も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大は止まらず、現在も世界各国は人類共通のこの問題への苦闘を続けています。

COVID-19の感染拡大によって言語聴覚療法の臨床現場や臨床実習の形態は変化を余儀なくされていますが、学会開催についても同じことが言えます。本年6月19日に名古屋市で開催された「第22回日本言語聴覚学会」(会長 中橋聖一氏 愛知県言語聴覚士会)は、現地開催とZoom開催を組み合わせたものとなりました。今学会のメインテーマは、「STの臨床実践力～明日へ繋がる 意識改革 知の創造～」であり、医療、福祉、介護、教育などにおける課題を深く掘り下げた研究が多数発表されました。参加者数は現地参加が300名以上、Zoom参加(事前登録者)が2,600名以上と、かつてない人数になりました。オンライン開催には直接、現地に赴かなくても参加できるという利便性がある一方で、演題発表において質疑応答を十分に行うことができないという難点があります。研究が真の価値を持つには、同じ学問領域の専門家によって評価・吟味されることが必要であり、学会発表では質疑応答がそのような役割を担います。オンライン学会では、完全に同時双方向の形式をとらない限り、参加者が質疑応答を通して研究内容を十分に吟味することは困難な場合が多いと言えます。本誌は査読制度を設けてピアレビューを適正に行っていますので、今回の学会で発表された研究を論文にまとめ投稿されることを期待します。

今号には、「第22回日本言語聴覚学会」の事後抄録および論文3編(症例報告、短報、レポート「現場最前線」)が掲載されています。症例報告(山本一真氏)では、慢性期失語症者に対する非侵襲性脳刺激法の効果が検討され、非損傷側への高頻度rTMSと集中的言語訓練のエビデンスが示されています。短報(飯村大智氏)では吃音者のコミュニケーション認識の質的分析、レポート「現場最前線」(長谷川智子氏)ではCOVID-19患者の嚥下障害への対応について興味深い研究成果が紹介されています。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第18巻 第3号) 2021年9月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2021年年間購読料: 8,250円(4冊、税込、送料発売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2021, Printed in Japan

制作・発売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)